



第154号 令和3年1月20日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

特集 武道系種目を実施するクラブ

▶▶▶ 今津スポーツクラブ21

特別企画 障がい者スポーツに取り組むクラブ

▶▶▶ NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ

▶▶▶ ゆうポップスポーツクラブ

緊急企画 我がクラブのコロナ対策

▶▶▶ NPO法人総合型地域スポーツクラブわっしょいUSAクラブ

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

武道系種目を実施するクラブ



今津スポーツクラブ21 ＜兵庫県西宮市＞



文部科学省は、我が国固有の文化であり、相手を尊重して練習や試合ができる種目である武道を中学校学習指導要領において必修化としました。

中学校の必修化に伴い、総合型クラブにおいても、武道系種目の活動をしているクラブも増えたのではないのでしょうか。

そこで今回は、指導者や活動における安全対策についてのヒントとなるよう、多くの武道系種目を取り入れて活動するクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

「子どもの部」10種目（武道系5種目）、「一般の部」15種目（武道系9種目）

当クラブの前身団体の「今津地区体育振興会」は、昭和36（1961）年10月4日に設立。兵庫県の「スポーツクラブ21ひょうご」事業にて、今津地区体育振興会から移行する形で、「今津スポーツクラブ21」として、平成17（2005）年4月1日に設立されました。

現在は小中学生を対象とする“子どもの部”が10種目（うち武道系は5種目）、高校生以上を対象とする“一般の部”が15種目（うち武道系は9種目）あります。

活動再開後もコロナ感染防止のため「組手」は活動自粛

事務局（運営委員会）は会長を中心に18名おり、新型コロナウイルス感染拡大による学校休業で活動を停止（3/3～3/25、4/8～5/31）していましたが、学校休業が解除されると同時に行政より活動許可が下り、西宮市スポーツ推進課のマニュアルに沿って活動を再開しました。しかし、接触してはいけないという項目があるため、柔道などの組手は活動自粛を続けていました。

現在（執筆は昨年12月）は規制も緩やかになり、3密を避けることを基本に感染予防対策をしながら活動しています。

【西宮市スポーツ振興課のマニュアル】（基本感染予防）

- ・活動時は距離を保つこと
- ・活動時間は2時間まで
- ・うがい、手指消毒
- ・行き帰り、休憩時はマスク着用など



2 武道を中心に展開するクラブ

柔道、剣道、空手以外に居合道、銃剣道、古武道なども実施

実施している武道ですが、「子どもの部」は剣道、空手、少林寺拳法、柔道、なぎなた、「一般の部」では柔道、剣道、空手、少林寺拳法、なぎなた、居合道、銃剣道、古武道、杖道を実施しています。

有段者(師範)が各種目の指導者

各教室の指導者たちは、武道の各種目の有段者(師範)を入れたメンバーで構成し、指導しています。古武道は危険性も含まれますので、もともとジュニア会員の受け入れをしていますが、剣道、柔道、空手などスポーツ要素の多い近代武道で受け入れを行っています。

武道には流派があり、稽古内容も変わります。当クラブの居合道は3流派がそれぞれで活動しています。

ジュニアには安全面に配慮して指導

ジュニアの指導では、しっかりと基本(型)を身に付けてもらい、組手など危険を伴う稽古には細心の注意を払っています。特にけが防止策として、①受け身をしっかりとらせる、②武具の正しい使い方を教える、③武道と暴力の違いを分からせる—など安全面での指導を徹底しております。

3 武道種目を実施する上で

時代に沿った武道指導を適時浸透させることが課題

50年以上にわたり武道の指導を続けているため、時代に沿った指導方法をいち早く浸透させていくことが課題です。行政より指導マニュアルが毎年出てきますので、武道だけでなく球技でも、それを指導者に伝え、理解してもらえるよう努めています。

武道のメリットは多いが、武具の個人金銭負担が大きい

武道種目を実施するメリットとしては、「礼儀作法が身に付く」「姿勢がよくなる」等が多くあげられます。一方、武具については個人所有のものが多いため金銭的に個人負担が大きくなるのがデメリットです。

道場スペースの確保と武具の管理面で苦勞

武道種目の中には畳を必要とする種目があります。そのため、当クラブとして苦勞するのは、道場として使用するスペースの確保についてです。当クラブは独自の道場を持っていますので、確保できないということはありませんが、耐震工事のため道場が使用できなくなることがあり、武道で交流のある中学校の武道場を何度かお借りしたことがあります。

また、種目によっては、管理に注意が必要な武具(居合道の真剣など)もありますので、武具の保管には注意しています。使用する武具の管理場所については、個人所有のものであれば自宅で管理してもらい、道場に置いておけるものは道場で管理するなどし、場所を確保しています。また、特に注意を払う必要があるものは道場横の、鍵のかかる小部屋のロッカーで管理するようにしています。

ルール、マナーの遵守を徹底

武道は精神を養う場ですので、いいかげんな気持ちで参加できません。お互い真剣な気持ちで取り組むからこそ、参加者に対しては、とにかくけがのないようルール、マナーを守ることを徹底させています。

4 会員増により地域のスポーツ熱を高めたい

古武道での後継者不足の解消 全国に羽ばたくジュニアの育成

古武道については、高齢化による後継者不足に陥っているのが現状ではありますが、継承させていくことが重要と考えます。ジュニアが参加している近代武道については、全国に羽ばたいていけるジュニアが多く育ってくれることを願っております。

クラブ全体としては、会員を増やし地域のスポーツ熱をさらに高めていくことを目標にしています。

(今津スポーツクラブ21 会計・スポーツ推進委員 石田 芳行)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成17年4月1日

所在地 兵庫県西宮市今津二葉町4-10

運営 会員数275名(令和2年4月現在)、予算規模約200万円(令和2年度)

特徴 全体の種目の半数が武道(剣道、空手、古武道、なぎなた等)
武道だけでなく野球、サッカー、バレーボール、バドミントンなど総計20種目からなる
豊富な種目数を実施

連絡先 〒663-8228 西宮市今津二葉町5-32
TEL/ FAX 0798-34-4785
E-Mail isi-isi@hcc5.bai.ne.jp



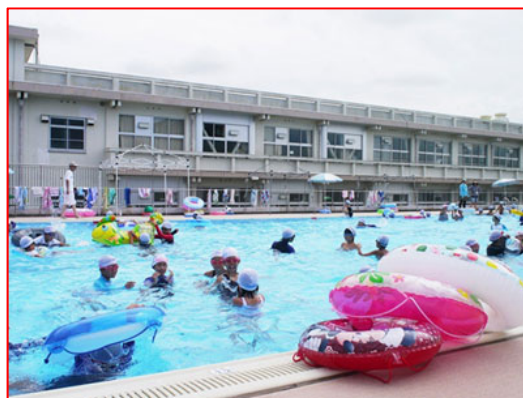
道場にての稽古風景(柔術)



道場にての稽古風景(棒術)



今津地区体育大会の昼休みに
クラブ行進および紹介を実施



市の委託事業として夏休みに小学校プールを
一般開放して監視員等実施

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ 〈石川県金沢市〉

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

平成18年(2006年)に準備委員会を立ち上げ、平成20年3月1日に設立、同年9月NPO法人として認証されました。金沢市とその周辺域の生活圏が活動エリアです。

設立は、公益社団法人金沢青年会議所のメンバーとバドミントン・スポーツ少年団「金沢サンシャトルズ」が母体となり協働で立ち上げました。

指導スタッフの半分以上が学生

現在、定期教室事業を軸に、外部の委託指導事業、イベント事業の三つの柱で事業を展開しています。定期教室は、10種目32教室、会員数は401名(令和2年12月現在)です。有給職員は、3名(内パート職1名)、非常勤職員1名です。登録指導者・スタッフは61名です。指導者の半分以上が学生というクラブの特徴があります。

2 陸上教室で障がい者スポーツを展開

特別支援学校卒業生が中心のクラブとの協働で始動

平成3年、特別支援学校の知的障がいのある卒業生を中心に、「春風クラブ」が結成されました。同クラブは年齢、性別、障がいの有無を問わず、陸上競技を生涯にわたって楽しむために、週2回の定期練習のほか、季節ごとの交流のためのイベント(バーベキュー、ボウリング大会)などの活動を実施しています。



平成18年のかなざわ総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会にも、陸上競技関係者の参加が多かったこともあり、陸上競技教室が当クラブの中心事業となりました。当クラブ発足当初より春風クラブの監督である井上明浩氏に参画いただき、春風クラブと協働し、主として陸上競技教室事業を模索し始めました。

会費の徴収で有償指導コーチを確保

当クラブ設立後の4年間は、補助金事業などを中心に活動していましたが、平成22年度より春風クラブのメンバーが当クラブの会員となり、会費を徴収することに合意が得られ、この会費収入から有償指導コーチを確保することができるようになりました。同時に、知的障がい者以外の視覚障がい者、聴覚障がい者や身体障がい者(脳性麻痺、脊髄損傷他)を受け入れるようになりました。

【春風クラブ 内容】

1～2回/週、18:30～20:00、90分/回、年間通じて、金沢市営陸上競技場で教室を展開しております。

平成21年度福祉医療機構助成金受託 知的・身体障害者陸上競技選手育成強化事業
令和2年度石川県障害者スポーツ普及促進事業受託

【事業にかかる経費など】

約250,000円/年

人員を要する障がい者教室 知的障がい者の会費は低額に設定

障がい者対象の教室では、それぞれの障害のレベルに応じたきめ細かな指導と障がい者の安全確保等に人員を要します。そのため、指導者対会員の比率が、健常者が対象になる教室指導に比べ指導者割合が高くなるようにするということと、特に知的障がい者においては、経済的格差の視点から会費を低額に設定する配慮が必要となります。

大学生を中心に無償指導スタッフを確保

かといって、クラブ全体の経済的基盤が盤石でない場合、多額の指導謝金を賄うことができないので、限られた有償指導者・スタッフ以外に無償の指導者・スタッフを要します。無償の人員を確保するため、コーチ間の紹介だけでなく、金沢市は人口に対する学生数が多いことから、障がい者教育、あるいは障がい者の生活支援等に関心の高い学生に、大学を通じて声掛けをさせていただいています。また、医療・福祉関係の補助金などの活用を心掛けています。



水曜日、金曜日の「春風クラブ」は障がい者を対象に定期で、月曜日「おとなのマラソン教室」がインクルージョン事業として新規に募集されました。



活動は、挨拶の後、軽いランニング、その後の体操、補強運動、専門種目(短距離グループ、長距離グループ)に分かれて練習します。

3 事業実施で得たもの

競技力向上には質の高い指導者の確保が必要

障がい者、特に知的障がい者の方の経済基盤は厳しく、会費を低く設定しないと継続が困難となり得ることが多くありましたが、有償指導者は最小限に抑え、無償指導者によって、見守り・指導を担保しました。これにより、およそ健常者の約半分の月会費に設定することで継続ができています。

過去にはパラリンピック(陸上)、世界知的障がい者陸上選手権大会等の世界大会に出場という活動成果も得られましたが、日本全体の障がい者スポーツの競技力が向上しているのと、春風クラブの選手の年齢が高くなってきている(平均33.97歳)ため、当クラブの参加者にとって上位入賞が困難になっています。それに伴い、保護者からは、よりきめ細かく、高い指導力を持った指導者確保を望まれており、これに応えるためには、より多くの資源投入が必要になり、経済的バランスを保つ為により一層の努力が必要となってくると考えています。

自ら通常教室に変わる若手障がい者も

近年、若い会員の中には、健常者の教室に自ら求めて通うようになった会員もあり、少なからず、クラブの存在は自然にインクルーシブ社会へ、障がい者のスポーツ振興を援助するものと感じております。

障がい者への指導を通じて成長するスタッフ

障がい者を対象とした事業の指導者は、社会人や学生たちと様々です。指導者の中には、障がい者を指導することで、やりがいを強く感じることができ、彼らを指導することで、指導力や対人関係づくりに、より自信を持つことができたという感想も聞けました。

指導面では、基礎に立ち返り、繰り返し丁寧に声を掛け指導することが求められ、それに対して素直に応えてくださる障がい者の方に、素直な心と真摯(しんし)な競技への姿勢から学ぶことが多いようです。彼らのひたむきな姿勢に、新しい価値観を教えられ、指導する側も影響を受け成長できていると思います。

4 障がい者と健常者とのインクルーシブな事業確立が目標

ほとんどの定期教室の会場は、公共スポーツ施設もしくは学校施設を利用させていただいています。特に天候が不安定で悪い日が多い、冬季の会場については、他団体との競争が激化して、スタッフには施設確保に労力とストレスがかかっています。それに加え、新型コロナウイルス感染拡大予防措置ということで、人数制限等で、さらに会場確保が難しくなっています。

障がい者、特に知的障がい者は、一般の会社員等に比べ、比較的早い時刻に教室に参加できる方が多くいらっしゃいます。しかし、一般職の指導者が、その時刻に合わせて指導、しかもボランティアとして教室指導に入るというマッチングも教室開催の困難さの要因になっています。

施設・送迎等の社会的インフラ、経済的なバックアップが不可欠

当クラブの障がい者教室は、障がい者と健常者のインクルーシブな事業展開を目指しています。そのためには、施設、送迎などの社会的インフラや経済的なバックアップが必要となるのではないかと思います。そのことにより、障がいがあっても、当人も保護者も不安なく、多くの選択肢から好きなスポーツを選べる、健康づくりのための運動が継続できるという、豊かで潤いのある暮らしに一步でも近づけるのではないかと思います。

障がいの有無を問わないランニング教室を新規開設

当クラブでは、石川県のモデル事業として、障がいの有無を問わないランニング教室を新規開設し、自然に交流し、助け合える定期教室事業、さらには、小学生のお子さんとその親御さんという親子を対象にしたランニングイベントの開催により、幼い時からスポーツを通じ、障がいの有無を問わないインクルーシブな事業展開を確立したいと考えています。

(NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ クラブマネジャー 竹井 早葉子)

クラブプロフィール

設立年月日 平成20年3月1日

所在地 石川県金沢市中村町26-43

運営 会員数459名(令和2年2月現在)、予算規模2,430万円(令和2年度)

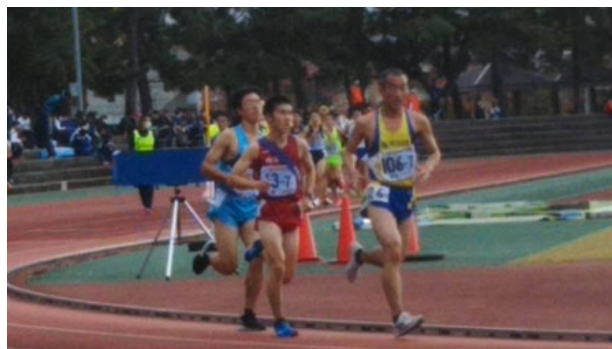
特徴

- ・広域エリアでの展開
- ・発足母体が、一般社団法人金沢青年会議所およびそのOBとスポーツ少年団単位団の連携からスタート
- ・単位人口に対する学生数の多さが地域的特徴であることから、指導者・スタッフに学生力を活用し、社会に羽ばたく前のキャリア教育の場となっている

連絡先 〒921-8022 石川県金沢市中村町26-43 VIDA金沢2F
TEL/FAX 076-287-3789
URL <http://kanazawa-ssc.jp/>
E-Mail kssports@friend.ocn.ne.jp



2020年11月1日に開催された「石川県駅伝競走選手権大会」で、この日の参加者の集合写真



2020年11月1日に開催された「石川県駅伝競走選手権大会」での力走です(青と黄色のユニフォーム)

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

ゆうポップスポーツクラブ 〈愛媛県松山市〉

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

今から47年前の1974年、筆者自宅1階に日本空手松涛連盟永木道場(松山市土居田町)を構えました。それ以来「生涯空手」の理念を掲げ、技能レベルや目的に応じた指導を続けています。

空手・車いす健康空手以外にポッチャ等のニュースポーツ教室も

2006年4月に空手のみならず、多種目のスポーツができる環境を整備し、地域に根差したクラブをつくるため、総合型地域スポーツクラブ「ゆうポップスポーツクラブ」を発足させました。現在は、空手、車いす健康空手、ニュースポーツ(ポッチャ、ディスコン等)の教室を開催しており、スポーツが持つ力で、地域の子どもから高齢者まで誰もが楽しめる活動を通じて、住民同士の交流や親睦を図っています。

コロナ禍で空手以外の教室は休止状態

現在は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で高齢者施設などへの出入りが制限されているため、空手教室のみ感染予防対策を行った上で実施しているのが現実です。デイケアサービス利用者の参加が多い、車いす健康空手教室、ポッチャ教室、ディスコン教室は、お休みしている状況です。



2

パラスポーツを応用した「車いす健康空手」を展開

障がい者以外にも高齢者や体が不自由な方も参加

日本空手松涛連盟では、「車いす空手」という分野に力を入れています。「車いす空手」は競技性があり、パラスポーツとして全国大会も開催されています。ゆうポップスポーツクラブでは、その車いす空手を応用した「車いす健康空手」を実施しています。「車いす健康空手」は、体操の要素を加え、車いすの代わりに通常のイスに座った状態で空手の稽古をします。障がい者だけでなく、高齢者や体が少し不自由な方でも、誰もが簡単にできます。

「車いす健康空手」はデイケアサービスの利用者によいと見え、教室を開設しました。参加者は主にデイケアサービスの利用者が中心ですが、希望があれば一般の方も参加することが可能です。加えて、ニュースポーツなども取り入れながら運動機会の場を提供しています。

障がい者の安全面への配慮を最優先

障がい者の方には、安全面への配慮を一番に考えています。安全に十分配慮しながらも、楽しんで参加してもらうことを目標としています。普段の稽古については、指導者、デイケアサービス職員等で参加者の補助等を行っています。

程よい配慮の下、健常者が障がい者をサポートして交流

一般の空手大会やイベントの際に「車いす健康空手」を発表していますが、一般の方には一緒に参加してもらったり、補助を手伝ってもらうことで交流を図っています。普段の稽古やイベントでは、障がい者が無理しない程度の活動量にしています。また、掛け声をゆっくりするなどの工夫もしています。しかし、意欲的に参加される方が多く、配慮しすぎると障がい者のやる気を邪魔してしまうこともあるため、できる限り最小限の配慮で、障がい者が自ら積極的に活動してもらうようにしています。

全国大会で「車いす健康空手」演武を披露

2018年7月には愛媛県武道館で開催された「第19回全国空手道選手権・全国車椅子空手道選手権大会」の場で、「車いす健康空手」の演武を披露しました。



全国空手道選手権・全国車椅子空手道選手権大会での演武

3 参加者・事務局からの声

【参加者からの声】

- 「大きな声を出しながら上半身(肩甲骨)を動かすので血行が良くなった」
- 「お腹の中から声を出すことで心と体がすっきりする」

【事務局側の声】

- 「デイケアサービス利用者が、車いす空手教室を楽しみにしてくれており、大好評です。また、ニュースポーツについても楽しんで活動していただいているようです」
- 「車いす空手道の発表の場をつくることで、教室に活気があふれるようになりました」
- 「障がいの有無を問わず、誰もが参加できるスポーツクラブでありたいと考えているため、今後も教室を実施していきたいです」

4 通常教室と車いす健康教室との合同イベントの更なる開催を

参加者はコロナ禍好転後の教室再開を心待ち

新型コロナウイルスが終息後の、教室再開を心待ちにしてくれている高齢者、障がい者、健常者ら皆様の気持ちの発散のためにも、早く全ての教室を再開したいです。

成果発表・交流の場を創設し、参加者が目標を持てる活動に

教室で活動したことを、成果として発表ができる場を少しずつ増やしていきたいです。そうすることで、さらなる交流の場となるだけでなく、参加者にも目標ができ、今以上の活動ができると考えております。

また、今後の目標は、空手教室と車いす健康空手教室の定期的な合同のイベントを今まで以上に開催することです。高齢者、障がい者がお腹からの発声をして楽しく体を動かし、今以上の健康な生活が送れるような環境づくりを目指します。

(ゆうポップスポーツクラブ 代表 永木 満)

クラブプロフィール

設立年月日 平成18年4月23日

所在地 愛媛県松山市土居田町583

運営 会員数50名(令和2年9月現在)、予算規模50万円(令和1年度)

特徴 空手教室を中心に、車いす健康空手やニュースポーツ(ボッチャ、ディスコン等)の教室を開催しており、スポーツが持つ力で、地域の子どもから高齢者まで誰もが楽しめる活動を通じて、住民同士の交流や親睦を図っています。

連絡先 〒790-0056 愛媛県松山市土居田町583
TEL 089-906-1712 FAX 089-906-1712
E-Mail nagaki-shinobu@md.pikara.ne.jp



地域の敬老会で日頃の練習の成果を披露



日頃の稽古の様子

緊急企画

我がクラブのコロナ対応

NPO法人総合型地域スポーツクラブ わっしょいUSAクラブ ＜大分県宇佐市＞

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、前を向いて積極的に活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

コロナ禍前は14種目、32教室を開催

当クラブは、大分県宇佐市にある設立7年目の総合型地域スポーツクラブです。

新型コロナウイルスの影響を受ける以前の2020年2月の時点では、利用会員250名、32教室、14種目を定期的な教室として開催し、スポーツ指導者講習会や教室体験会、長期休暇中の子どもたちを対象とした物づくり教室、ハンドメイドやテイクアウト飲食の出店を伴うイベントを年数回開催していました。

コロナ禍後は3度も活動休止に

新型コロナウイルスの影響を受け、2020年3月から6月に第1次の活動休止。7月に活動再開しましたが、市内に感染者が確認されたため、8・9月に第2次の活動休止となりました。10月に再開しますが、再度市内に感染者が確認されたため、11月中旬から現在に至るまで第3次の活動休止中です。

現在の会員数は200名。2月以降の再開を目指しています。

2

withコロナで活動する

対面とオンラインを組み合わせたハイブリット型のクラブ活動へ

(1)オンラインコンテンツの充実

第1次活動休止が決まった時に、会員さんが活動を引き続き行えるよう、非対面型教室の構築として、以下のオンラインコンテンツを考えました。第1次でコンテンツを考え、コンテンツが稼働したのは、第2・3次活動休止時です。

①ライブ型(オンラインアプリを活用し、画面を通して教室を行う)

②ストック型(講座内容を撮影・編集し受講者の良いタイミングで受講可能)

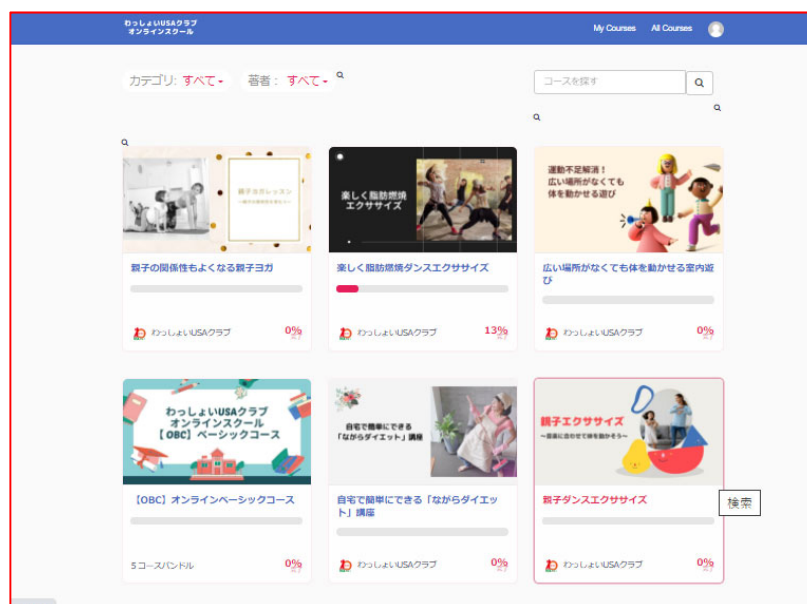
ライブ型で使用するパソコンについては、日本スポーツ協会のスポーツ活動継続サポート事業(スポーツ事業継続支援補助金)の交付を受けて購入し、ストック型で必要となるオンラインスクールは、大分県新型コロナウイルス感染症対応緊急支援事業費補助金の交付を受けて構築しました。

ライブ型で活用したZOOMは、このような状況になって初めて利用したものでした。ホスト役をこなすために、講師はオンラインアプリを研究し有効に使いこなせるようになりました。ライブ型の教室を開催する前に、一緒にアプリをダウンロードする機会を個別に設定したり、自宅のネット環境やZOOMが実際に使えるのかどうか「お試し会」を開催しました。

ストック型では、事務局が動画編集に元々興味があり、勉強をしていました。今回、このような状況下となり通常の活動ができなくなったため、より一層勉強を進める時間も取ることができました。

詳細は当クラブHPに掲載していますが、ここでもご紹介いたします。

(オンラインスクールのURL及びQRコードはページの最後に掲載しています。)



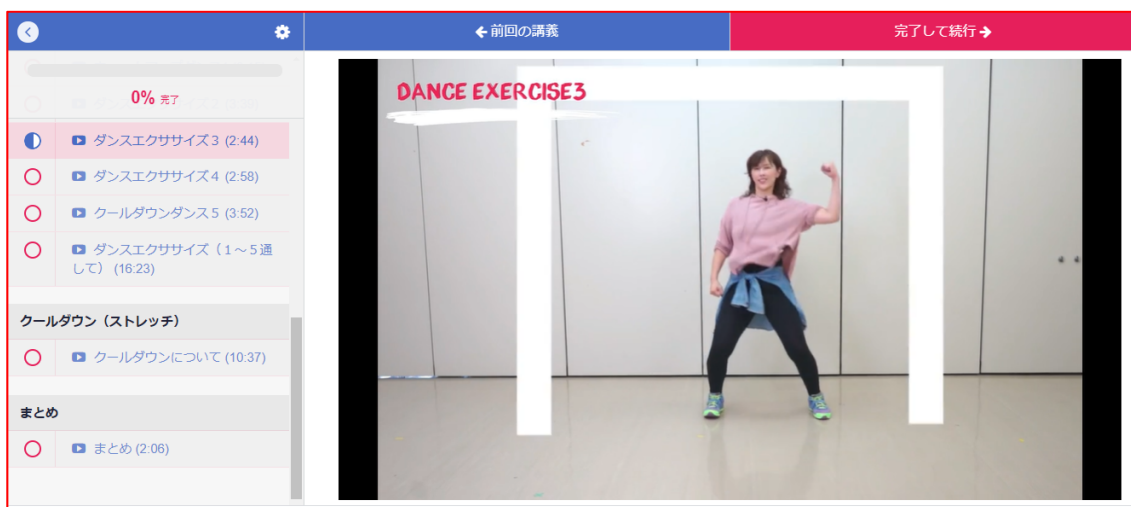
【わっしょいUSAクラブのオンラインスクール】

- ネット環境さえあれば、このオンライン講座の内容はどこにいても行えます。
- 家でもできる、家族や友達ともできる、そんなエクササイズを準備しています。
- まだ講座数は少ないですが、これから徐々に増やしていく予定です。
- 無料でご覧いただけますので、日々のちょっとした運動不足の解消やお子様とのコミュニケーションの手段としてぜひご活用いただくと幸いです。
- メールアドレスと名前をご登録いただけますとすぐに見れるようになります。

わっしょいUSAクラブオンラインスクールぜひご覧ください📺

オンライン【ストック型】

<https://school.wausac-online.org/p/obc-usakurabu>



オンラインスクール【ストック型】

【ライブ型教室利用者の声】

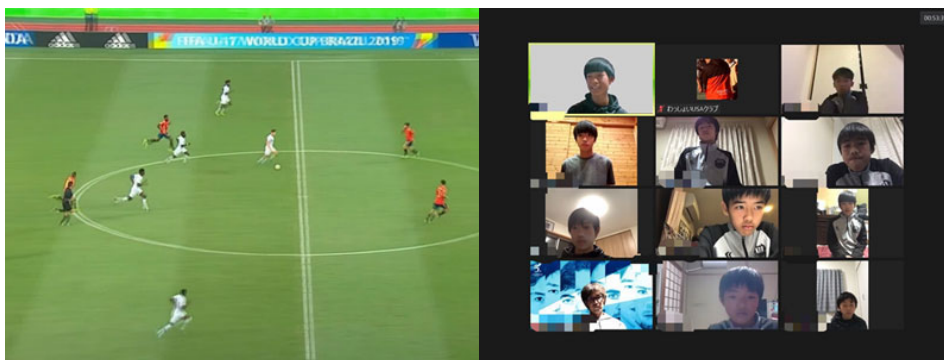
活動休止期間が長く、教室講師と参加者との距離があるように感じたので、ライブ型の教室を活用し、まずはコミュニケーションを取ることを目標に実施を促しています。

ライブ型教室への参加者からは以下の声が上がっています。

- 「練習会場へ足を運ばなくても、個々に取り組めるトレーニングの指示を受けることができ、その動きの確認もできる」
- 「プレー映像を見ることで、コーチと自分たち選手間でプレースタイルのイメージの共有ができます。また、自らの動きを映像で振り返ることで、今後のプレーの向上につながります」
- 「サッカーで大切な『数的優位』について映像を見ながら確認できて、次の練習で取り組んでみたいと思いました」
- 「進路を高体連やユースチームで迷っていましたが、話を大人のスタッフに聞いてもらって、それぞれの良い部分を聞くことができ参考になりました」

【ストック型では時間・場所を問わない仕組みづくりを】

ストック型は運用を開始したばかりで、登録者数は少ないですが、自分の都合に合ったタイミングで必要なものを受講できることが好評の要因となっています。



オンライン【ライブ型】

(2) 対面型教室の感染症対策 再開時は予防策を徹底

活動再開となった時には、参加者だけでなく付き添いの保護者も含めた来場者の健康チェック、消毒や感染予防の手順書やチェックリストを作成して、会員さんへ周知しました。また、手指や使用備品の除菌セットを各教室へ準備して活動を再開しました。

【手順書の概要】

コロナ対策手順【レッスン前】

- 1、ハンドソープでの手洗い、アルコールによる手指消毒をして下さい。
※手洗い用ハンドソープはトイレ、アルコールは玄関と研修室に1本ずつ置いてあります。
- 2、サーキュレーターを使って換気を行って下さい
- 3、参加者名簿へ出欠確認を記入・体調確認をして下さい
- 4、コロナ対策用チェックリストへレッスン前及びレッスン中の注意点を遵守できているかチェックをお願いします

※その他の部分に気になる方は自分の周辺にアルコール除菌シートやスプレー等をお使いください（使用したゴミは衛生用ゴミ箱に入れて下さい）

コロナ対策手順【レッスン後】①

- 1、体調確認をして下さい
- 2～3、使用した道具の片付けと清掃、除菌作業をお願いします。
※清掃及び除菌用具は机の上にあります。
※使い捨てゴム手袋・キッチンペーパーもありますので自由にお使いください

除菌シートにて人が触れた箇所などの消毒をお願いします。

除菌スプレーにて使用したマットや床全体の消毒をお願いします。

コロナ対策手順【レッスン後】②

クイックシートにて床の清掃・除菌をお願いします。

- 4、使用した除菌シートや使い捨てゴム手袋などは衛生用ゴミ箱（小）に入れ、口を縛って大きな蓋付きゴミ箱（大）へ入れてください。
※持参したゴミは入れないこと

衛生用ゴミ箱（小）に次の方が使いやすい様に袋を入れて下さい。

コロナ対策手順【レッスン後】③

清掃道具や除菌セット、サーキュレーターを元の位置へお願いします

- 5、手指の手洗い、消毒・マスクの着用をして下さい
- 6、参加者名簿の記入漏れはないか、コロナ対策用チェックリストのチェック漏れがないか確認をして下さい
- 7、戸締りをして下さい
 - ・冷暖房、サーキュレーターの電源OFF・窓戸締り・電気OFF・ドア戸締り

【活動再開後の指導上の注意事項】

- 会場入口で手洗い・消毒をさせる。また、指導者はマスク着用
- 教室途中の給水用飲料や各人の荷物は、それぞれ距離をとって置く
- 集合時には密にならない状態で集合。ハイタッチのかわりに 肘タッチ

3 クラブの今後の展望

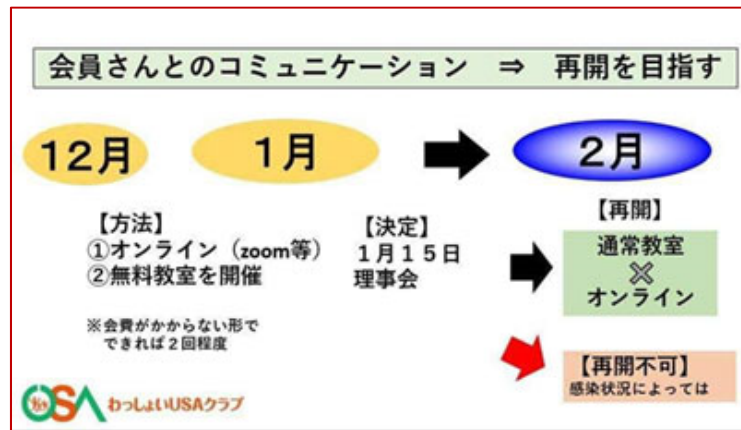
参加者に選択肢をつくる

今後、対面と非対面型を選択できるようにしていくことで、活動の自由度や幅が広がると思います。会場に来たくても仕事や子育てが忙しく外出できない母親や、外で遊べる環境がない子どもたちも時間、場所問わずに学べ、運動ができる仕組みづくりをしていきたいと考えています。

教室内容を充実させ、有料コンテンツ配信を目指す

オンラインでの教室開催は補助金を活用してのオンラインコンテンツですので、視聴無料です。今回のコンテンツを広報用としてとらえ、今後は有料のコンテンツを配信していきたいと考えています。今後、参加費や会費で運用できるよう、教室内容を充実させていく必要もあると考えます。

(NPO法人わっしょいUSAクラブ クラブマネジャー 宮崎 啓子)



キッズ対象のスポーツ教室について



わっしょいUSAクラブ

クラブプロフィール

設立年月日 平成26年3月30日(平成30年10月31日NPO法人登記)

所在地 大分県宇佐市

運営 会員数200名(令和2年12月現在)、予算規模 780万円(令和2年度)

特徴 ・**スポーツ事業部**

キッズ教室(幼児・小学低学年を対象とした教室種目を通して、体づくり・お友達づくり、体を動かすことの楽しさを伝えることを目的とした教室。担当講師の人選に力を入れている)

・**カルチャー事業部**

託児付き教室(子育て中の母親の育児ストレス解消のため、レッスン室と託児室を分けて開催。レッスン中は子どもを託児スタッフに預ける)

・**ママ活き活き事業部**

地域の困りごとを、教室参加者や保護者の女性で解決する

連絡先 〒872-0101 大分県宇佐市高森1382
TEL / FAX 0978-37-1980
URL <https://wausa.or.jp/>
E-Mail ssc_wausac@yahoo.co.jp



助成金情報

ノエビアグリーン財団 2020年度助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申込期間] 2020年12月1日(火)9:00～2021年2月26日(金)正午12:00

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2021年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

助成金交付対象は、青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体とします。

[申込期間]

前期 対象期間:2021年4月～9月および2021年度の年間を通した事業

申請期限:2020年12月21日(当日消印有効)

交付決定:2021年3月1日(予定)

後期 対象期間:2021年10月～2022年3月の事業

申請期限:2021年6月21日(当日消印有効)

交付決定:2021年8月31日(予定)

交付申請要領をご確認いただき、助成金交付申請書等を提出してください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2021を開催します！

生涯スポーツ・体力づくり全国会議は、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する貴重な機会として、毎年行われています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、インターネット環境を使用したオンラインにて開催いたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております！

主催 スポーツ庁／生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会

日時 令和3(2021)年2月5日(金) 13:00～16:50

方法 ウェビナー

※全国会議2021にお申込みされた方は、当日のライブ配信視聴のほか、後日配信いたしますオンデマンド配信の視聴ができます。

参加費 2,000円(税込)

※今年度は日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修には当たりませんので、ご注意ください。

開催要項・配信スケジュール等↓

<https://www.japan-sports.or.jp/zennkokukaigi/tabid200.html>

参加申込サイト↓

<https://sportinlife.jp/>

参加申込締切日 令和3年(2021)年1月25日(月)

【お問い合わせ先】

・内容について

スポーツ庁健康スポーツ課健康・体力づくり係

E-mail: kensport@mext.go.jp

・申込みについて

日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部国内課(実行委員会事務局)

E-mail: shougai@japan-sports.or.jp



J-STARプロジェクト4期生エントリー締切まであと12日！（1/31締切）

現在、日本スポーツ協会では、スポーツ庁等と連携・協力し、次世代アスリートを発掘する国家プロジェクト「J-STARプロジェクト」の4期生(オリンピック競技)を募集しております。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種大会が中止になり、自分の可能性に挑戦する機会を失ったり、スポーツ活動自体も大きく制約を受けたことで、スポーツの醍醐味である、仲間と一緒に汗を流したり、切磋琢磨したり…と、いつも当たり前にあったスポーツができる環境が大きく変化してしまいました。

それでも、J-STARプロジェクトはスポーツでチャレンジしたい、自分の可能性を広げてみたいなど、子どもたちのスポーツへの想いを途切れさせないためにも、感染症防止策を取り最大限安全配慮の上、プロジェクトを実施しております。

J-STARプロジェクトには、現在の競技で高みを目指す選手、競技転向で新しい自分の可能性に出会った選手、二刀流・三刀流に挑戦する選手がいます。選手の「個性」を活かし、子どもたちが前向きにスポーツに取り組めるよう、J-STARプロジェクトが全力でサポートいたします。総合型地域スポーツクラブで活動している子どもたちが自分を知る一つの機会として、ぜひ、指導者の皆様の手で子どもたちの背中を押していただければ幸いです。

どんな時でも、子どもたちの可能性は無限大です。

プロジェクトの詳細はこちらから

<https://tinyurl.com/y475qlhk>

エントリー締切日

2021年1月31日（日）

エントリー方法

<https://tinyurl.com/y299xneb>

※ チーム単位で一括お申込みも受付中です。

〔希望される場合は、本メール下部に記載している問い合わせ先(競技支援課)まで〕

【お問い合わせ先】

日本スポーツ協会 国体推進部競技支援課（J-STARプロジェクト事務局）

TEL：03-6910-5809

E-mail：kyougi@japan-sports.or.jp